

だよ さくら便り

Sakura Letters Vol.26

Sakura Hiroko

発行責任者：櫻 裕子



「さくら便り」は政務活動費で作成しております。

いつもご支援いただき、誠にありがとうございます。新年度の方針や予算等を審議する2022年3月定例会において、所属する会派『盛友会』の幹事長として、市長並びに教育長に対し、代表質問を行いましたので、一部内容を掲載いたします。目を通していただければ幸いです。



新型コロナウイルス感染症対策の総括について問う

Q. 長期化するコロナ禍において、市はこれまで様々な経済支援や生活支援を行ってきたが、それらはどのように市民生活に活かされているのか？支援金給付等においては手続きが煩雑で申請をあきらめている事業者もいると聞かすが、実態把握はできているのか？

A. コロナに関する相談体制として、経済相談並びに生活相談窓口を設置し、全庁挙げて対応しています。また、制度的対応としては、資金繰りへの支援や「盛岡企業ワイドサポート給付金事業」など、状況に応じた支援制度の創設を図ってきたところです。

支援金等の申請手続きについては、国・県・市それぞれの支援を受けるため、同じ書類を何度も求められるなど、煩雑であるという声も聞こえてきております。このことから、どなたでも分かるよう申請フロー図を示したり、提出書類を必要最低限に限るとともに、チェックリスト等により提出漏れのないよう努めてきたところです。今後も申請方法の簡略化に努め、相談等があった際は、丁寧で分かりやすい対応を行ってまいります。（市長答弁）

新年度の重点的に取り組む『戦略プロジェクト』について

Q. コロナ禍により、サプライチェーンの国内回帰が叫ばれている。今こそ積極的な企業誘致を図るべきと考えるが、所見は？

A. 令和2年度に10,000社を対象とした可能性調査ではサプライチェーンの国内回帰に伴う本市への企業誘致は明確な傾向を把握できなかったものの、物流事業者の立地希望が他の業種に比べて多く、交通環境に優位性のあるポテンシャルへの注目が極めて高いものと認識できたことから、現在予定している盛岡南公園周辺地区への新たな新産業等用地整備の検討に着手するに至っております。今後も国や県と連携しながら、本市の特徴である豊富な理工系人材や活発な産学官連携に加え、事業所の立地に関する助成制度を企業にアピールするなど、企業誘致に全力を傾注してまいります。（市長答弁）

Q. 新庁舎の建て替え予定地として『内丸』『盛岡駅西』『盛南』の3か所が挙げられたが、現段階で考えている行政機能集約化の状況と、財源確保策を示されたい。

A. 本庁舎、若園分庁舎、内丸分庁舎、愛宕町分庁舎を新市庁舎に集約することとしております。財源確保策については、活用可能な補助金を最大限充当することとし、加えて、積立金の増額を予定している市庁舎整備基金及び市債を充当することとしております。（市長答弁）

★市庁舎整備基金の積立額は令和3年度末で22億円。毎年度の積立金は2億円から4億円に変更されます。想定している建設費(建物本体分)は130億～150億円とのこと。財政確保策についてはその手腕が問われるところです。

子ども・子育て、若者への支援について

Q. 子どもの見守り体制を強化することを目的に、市民団体などが開設する『子ども食堂』を市内全域に増やしていく予定と聞かすが、今後の展望と運営に対する所見を伺う。



A. コロナ禍で不安やストレスを抱える子育て世代が増加し、子どもの見守りが一層求められていることから、「支援対象児童等見守り強化事業」等により、積極的な支援に努め、社会全体で子どもの健やかな成長を見守る取組を推進してまいります。（市長答弁）

▲昨秋から高松商店会が中心となって始めた子ども食堂。回を重ねるごとに利用者もボランティア数も増えております。目指すは地域の世代交流拠点！

高齢者福祉の充実について

Q. 人出不足が続いている介護職員の現状をどう把握しているのか？

A. 本市が独自に調査した結果では、70%の事業所で介護職員が不足しており、事業者に対し、国の処遇改善支援補助金の活用等による賃金改善や有給休暇が取得しやすい環境の整備を促すなど、人材確保に努めているところです。（市長答弁）

Q. 現在の施設待機者の数と、令和4年度の整備計画について伺う。

A. 施設待機者数は、特別養護老人ホーム等において980人であり、うち緊急な対応が必要な待機者数は271人です。令和4年度は、特別養護老人ホーム90床の新設等に取り組んでいく予定です。（市長答弁）

学校における新型コロナウイルス感染症対策について

Q. 感染力の強いオミクロン株により、児童生徒の感染が急増した。このことから市教委では、2月から市内小中学校の閉鎖措置運用の見直しを行ったとのことだが、その内容とは？

A. これまでは、PCR検査の対象となる児童生徒の範囲を特定するために、該当する学校を一齐臨時休校としていましたが、令和4年2月より、子ども達の学びを保障すること、社会の動きを止めないこと等を考慮し、PCR検査対象者のしぼり込みを行い、学級を中心とした閉鎖措置に見直すこととしたものです。（教育長答弁）

Q. コロナ禍が子ども達に及ぼす影響をどのように感じているか？

A. 外出を控えたり、マスク着用によって表情が見えにくかったりするなど、感染症対策を講じながらの生活は、児童生徒の心身へ影響を与えることが懸念されます。引き続き感染症対策を講じながら十分な学習ができるよう工夫し、きめ細かな対応を行ってまいります。また、予測困難な社会においても「基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して様々な問題に対応し、解決する力」や「自らを律しつつ、他人とともに協調し、思いやる心」などの育成を学校教育が目指すところとし、進めて参ります。（教育長答弁）

全国調査で増加傾向にある不登校やいじめについて

Q. 盛岡市の現状と対策について伺う。

A. 不登校については、令和2年度350人、3年度は1月末時点で367人で全国同様、増加傾向にあります。コロナ禍による子ども達の生活環境の変化もその一因として考えられると捉えています。

いじめ件数も増加傾向で、「つらい」「みのがさない」「のこさない」という考え方を基本とし、児童や保護者からいじめの訴えがあった場合に、その訴えをしっかりと受け止め、初期段階から寄り添い、きめ細かな支援をしていくことが重大事態を防ぐことにつながると考え、対応しています。（教育長答弁）

〈仮称〉盛岡学校給食センターについて

Q. 施設の概要と新年度の事業計画はどのようになっているのか？

A. 1日当たり最大8,500食の供給が可能であり、都南地域を中心に、小学校9校、中学校8校の計17校への供給を予定しています。災害時には停電時でも外部電源を接続することが可能で、簡易な煮炊きを行うことができます。また、最大85食のアレルギー対応食の調理が可能となります。施設は、令和5年1月末に完成予定で、同年4月から供用開始となる予定です。（教育長答弁）



（盛総合設計・武田菱設計共同企業体提供）

＊新たなセンターについては、他に市内2か所の建設用地を検討しているとのこと。一日も早い候補地の選定を望むものです。

＊桜ひろ子プロフィール＊

平成23年盛岡市議会議員初当選（現在3期目）

- ・所属会派 盛友会 幹事長
- ・高松商店会 理事
- ・認定こども園つつみ幼稚園 理事
- ・岩手県立盛岡第三高等学校 学校運営協議会委員
- ・岩手県ラジオ体操連盟副会長
- ・盛岡市図書館協議会委員

桜ひろ子
事務所

市政への要望・地域課題
（道路の穴ぼこ、除雪の不満など）
皆様の声をドンドン
お寄せ下さい！

E-mail info@sakura-hiroko.com

U R L http://sakura-hiroko.com/



桜ひろ子
Facebook
最新情報公開中